

第2回 中部の地域づくり委員会 議事概要

1. 日 時

平成30年10月18日（木） 16:00～17:30

2. 場 所

名古屋都市センター 11階ホール

3. 出席委員

奥野信宏座長、内田俊宏委員、小川正樹委員、後藤澄江委員、森川高行委員

4. 内 容

(1) 議 事

1) これまでの意見交換会の概要（第1回～第5回）

2) 中部の地域づくり委員会 中間とりまとめ（素案）

① ものづくりの現状・課題及び将来方向、リニア中央新幹線の効果

② “ものづくり”を進化させる地域づくりの基本方針、将来方向実現のための取組み

上記について、事務局から説明。その後、意見交換を実施。

各委員から出た主な意見は以下のとおり。※意見は発言順で記載。

○中部の地域づくり委員会 中間とりまとめ（素案）

① ものづくりの現状・課題及び将来方向、リニア中央新幹線の効果

（内田委員）

- ・ 中部国際空港を「中空」と表記（p19）しているが、最初に愛称を決める際、「中が空っぽ」ということで候補から外された経緯があるため、確認してほしい。
- ・ 中部国際空港から名古屋駅までの所要時間は、ミュースカイに乗車すると最速で28分であるため、35分の根拠を確認したうえで所要時間を少なく記載すべきではないか。
- ・ 高度人材（p10）や“ものづくり”を支える労働力の減少（p12）について記載があるが、来年4月から政府が新しく外国人労働者の「新しい受け入れ制度」を活用する動きがあるため、外国人労働者についても触れておくと良いのではないか。

（奥野座長）

- ・ ナレッジ・リンク（知的・対流）の形成について、名古屋大学は素晴らしい大学であるにも関わらず、飛行機に乗る前に立ち寄るには少し距離がある。名古屋駅周辺に少しずつ機能の移転を予定しているが、名古屋駅周辺において日本に来たら必ず立ち寄れるというような知的対流拠点の整備が必要である。

(森川委員)

- ・ p4 背景で、製造業の労働生産性が 2000 年で 1 位であったのが 2015 年には 14 位に落ち込んでいる。作るものが付加価値の低いものになったのか、作り方や売り方が悪いのか、もう少し背景を深掘りして対策をとらないと、日本または中部圏がどうしようもなくなる。そのきっかけとなるような調査の有無を、可能であれば調べてほしい。

(内田委員)

- ・ p5 注釈のところに為替レート等の調整とあり、購買力平価か何かで調整している可能性があるが、為替の影響は多少なりとも受けている感じはする。しかし、順位が 1 位から 14 位まで落ち込んだことは為替だけでは説明ができないため、その他の要因については少し分析する必要がある。

(奥野座長)

- ・ 10 年ほど前に、当時の通商産業省のプロジェクトで中部の“ものづくり”について勉強会を東京で開催したことがあり、私が担当していた。中部は付加価値の額が大きい反面、生産性では東京や大阪より低いという話が挙がっていたが、このような現象が今も中部で起こっているのではないかと。併せて、“ものづくり”に携わる人の学歴調査によると、中部は東京や大阪に比べて低いという事実もあり、こうした点についても考えていく必要がある。

(後藤委員)

- ・ p10 に、第 4 次産業革命への対応の一策として女性の活躍や労働力の活用とあり、また、p23 に、製造業における労働力人口減少の補完として女性労働力の活用とある。女性が関わることで新たに開拓できるサービス産業の部分はかなりあることは確かである。しかし、女性労働力をものづくりの新たな展開のためにどのように活用するのか、女性労働力を引き寄せることで中部に新たな産業が創り出されるということなのか、その辺りの記述が抜けている。中部圏でこれから女性労働力がどういう分野に加わることで新たな展開があると考えているか、少し見えづらいため、現状をもう少し書き込むと良い。

(小川委員)

- ・ 対応すべきものづくりの課題 (p12、13) において “ものづくり” だけに焦点があたっているが、“ものづくり”を進めるためにはサービス産業等もあってはじめて可能になるため、こうした点にも触れると良い。例えば、サービス産業の生産性の向上という話も出てきた場合、女性の活躍という話とも関連付けることができる。“ものづくり”の生産性の向上については、中小企業の生産性が伸び悩んでいることが要因の一つではないか。また、新規事業、開業数が少ないこと、企業の新陳代謝が少し弱いことも影響していると考えられる。

② “ものづくり”を進化させる地域づくりの基本方針、将来方向実現のための取組み

(奥野座長)

- ・ 海外の子弟のための教育環境、医療環境の整備というのは、非常に大事である。
- ・ インターナショナルスクールが名古屋駅の近くにもうひとつできる予定で、三河の方からの通学が可能となる。豊橋にも作りたいという話もあるが、名古屋駅にできれば豊橋からの通学も可能である。名古屋駅からスクールバスの運行も想定され、非常に重要なことである。
- ・ 医療環境については、英語で対応できる病院がなかなかなく、名大病院も日本語のわからない人が来た場合、英語のわかる人が迅速に対応するが、どうしても英語だけというわけにはいかない。これから小学校へ入学して英語教育を学んでいく中で、5年単位くらいでどんどん改訂していこうが、現時点では課題である。
- ・ 私が名古屋大学にいた頃の経験では、海外から来た人を守山のインターナショナルスクールに通学させるとなると、途上国から来た人には授業料がとにかく高く、通学するのが難しいという事情があった。

(小川委員)

- ・ 守山のインターナショナルスクールの話があったが、今は生徒がいっぱいでパンク状態のため、名古屋駅にひとつできる予定であるが、これでも不足する。海外の方の住環境整備という面で、インターナショナルスクール、病院、買い物など、色々な課題が出てくるだろう。
- ・ 高度人材については、比較的記載が多いが、この時期、“ものづくり”だけではなく、一般（中間層）の人達よりグレードアップすることで、ビッグデータ、AIの時代の中で活躍することが必要である。中間層を対象にIoT教育などをしっかりと行うことについても記載があれば、中小企業やサービス業においてもIT化が進んで生産性が上がるのではないか。
- ・ リニアができると、飯田、中津川、名古屋から東京に通うことも可能になるため、テレワークや情報インフラの整備についてももう少し記載があると良いのではないか。
- ・ 物流面では道路ネットワークもあるが、物流そのものの効率化も大きなポイントであるという記載がほしい。

(森川委員)

- ・ 国土交通省がつくる“地域づくり”のため、もう少しインフラについての記載がほしい。例えば、セントレアの二本目滑走路や二本目の鉄道アクセスといった事業で、今後この地域のものづくりやICTを活かしたものづくりの環境を整えるうえで非常に大事になってくる。
- ・ 背景では、リニアができると羽田空港等へのアクセスが「非常に便利になるから良い」との記載があるが、そうするとセントレアではなく羽田空港や関西国際空港の利用を促進することになり、セントレアは相対的に国際線が減少してしまう。比較優位性から考えると、「首都圏や関西圏の方が国際的・ビジネス的に住みやすい」ということを見過ごしていくことになる。

- ・ 物流の中で、ダブル連結トラック、無人トラック、隊列走行などが挙げたが、これを実現するためには新東名の6車線化が必須で、静岡県内は6車線であるのに対して、愛知県は4車線しか整備されていない。愛知県内における新東名のグレードアップが必須ではないか。
- ・ 重要物流道路をはじめとした国土交通省が作るインフラについて、もう少し記載があると良い。

(後藤委員)

- ・ 外国人人材だけではなく転入人口も視野に入れ、彼らにとっても魅力的な地域になるという記載もほしい。転入というと、名古屋は家族帯同ではなく単身で来る地域と言われている。そういった意味でも、リニアの開通によってこの地域が外国人や色々な人達が交わる魅力的な空間になる。ICT人材は急に育つものでは無いため、国土交通省が抱える駅や道路においても、子どもたちが色々なICTを感じるような空間にすべきである。基礎能力がある子ども達はICT人材に育っていくため、「ICT人材を育てる空間になる施設づくり」という文言があっても良いのではないか。
- ・ 女性の労働力について、ここでの扱いは「不足する人材を補う労働力として」と消極的にしか書かれていない。「女性達の持っている潜在的な能力を開発し、新しいビジネスを育成する」「家族に伴って来た外国人女性達が集い活躍する空間やネットワークをつくり、この地域に新たな魅力をつくっていく」といった女性労働力を積極的にとらえる文言がほしい。

(内田委員)

- ・ “中部の地域づくり”という観点で言うと、“ものづくり”から派生して、ものづくり拠点のPRにも繋がるような観光分野についても盛り込んで良いのではないか。

(奥野座長)

- ・ 産業見本市に触れても良いのではないか。名古屋商工会議所が愛知万博以降、金城ふ頭で続けていて、最初は100社程度だったが、現在では千数百社にのぼり会場が無いために断っているというのが実状である。海外からの企業も多数来ており、お互い商業ベースの話が行われる中で成立していくという役割が非常に大きくなっているため、金城ふ頭の会場では狭すぎるという状況にある。また、最近では民間の事業者がこうした産業見本市を分野別あるいは総合的に行っているが、会場が無いために名古屋では実現できていないようである。産業見本市に世界中から人が集まって話をする場を今後さらに整備すべきではないか。これは非常に大事なことである。

(小川委員)

- ・ 奥野座長の言う展示場や、MICEができるような国際会議場も手狭のため、産業見本市を充実することによって世界との対流、交流をより形成していくという表現がほしい。

3) 今後の進め方(案)

スケジュール、ベンチャー企業へのアンケート調査について、事務局から説明。

その後、意見交換を実施。

各委員から出た主な意見は以下のとおり。※意見は発言順で記載。

(内田委員)

- ・ (p3)で、貴社の主要業種は聞いているが、企業向け、サービス業であれば、取引先など、相手先の業種も立地に関係するため、こうした質問があると良いのではないか。
- ・ 本社立地の観点での魅力度を(p8)で聞いているが、外国人の中でも高度人材、IT技術者等の人材獲得に関しての魅力度、都市のイメージの重要性など本社立地とは別に、人材獲得の面からの魅力度も少し聞けると良いのではないか。

(後藤委員)

- ・ (Q3)に、貴社が開発、提供しているサービスについての質問があるが、逆に貴社が優先して使いたいサービスを聞いておくと、後でクロス集計をした際に活用できるのではないか。

(小川委員)

- ・ アンケートでは「本社」ではなく、「オフィス」のような表現が良いのではないか。
- ・ 現在の業種分けでベンチャーの業種を聞くと、ほとんどがその他のサービスに該当するため、その他のサービス業における具体的な内容を聞いておくと、後により役に立つのではないか。
- ・ IT企業についても名古屋への進出は、どのように関わっているのか、アンケートもしくはヒアリング等のかたちで調査をお願いしたい。
- ・ 本提言をシンポジウム等で周知し、これがこの地域でどのくらい進んでいるかというフォローアップも進めていく必要がある。今回は中部地整がとりまとめているが、中部経済産業局における東海産業競争力協議会と共通している部分もあるため、連携しながらフォローアップができると良い。単に、各自治体の取組状況だけでなく、「具体的な成果に繋がっている」「数字を伸ばすために更に展開していく必要がある」といった課題が見つかるようなフォローアップができると良い。

(2) その他

- ・ 次回の委員会は、平成31年1月～2月頃に開催予定。

(以上)